

平成 25 年度「学力向上のための P D C A サイクルづくり支援事業」C 調査集計結果

1 調査教科及び調査した児童生徒数

() 内は参加校数

	国語	算数・数学	英語
小学校 4 年		13745 人 (280 校)	
小学校 5 年	15811 人 (307 校)	15818 人 (307 校)	
中学校 1 年		13501 人 (144 校)	
中学校 2 年	14292 人 (151 校)	14390 人 (152 校)	14375 人 (152 校)

2 各問の正答率

(単位%)

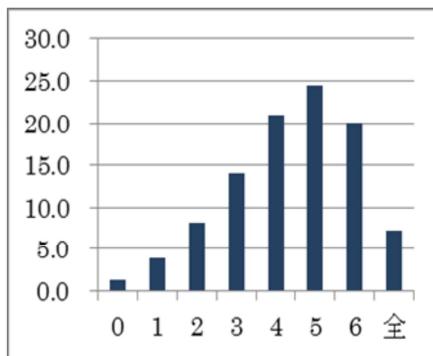
問題番号		【1】	【2】	【3】	【4】	【5】	【6】	【7】
小学校 4 年	算数	65.5	72.2	73.8	28.3	80.6	78.0	40.4
小学校 5 年	国語	90.8	70.9	61.8	62.1	82.6	85.8	34.0
	算数	68.0	54.0	72.0	58.2	29.5	44.2	60.1
中学校 1 年	数学	86.7	68.7	28.4	62.0	59.5	85.2	60.5
中学校 2 年	国語	61.3	63.4	68.9	61.5	85.1	51.3	59.2
	数学	79.4	64.4	78.6	46.5	45.7	21.9	59.4
	英語	44.9	55.7	53.8	65.9	60.6	47.3	38.1

3 正答数の分布

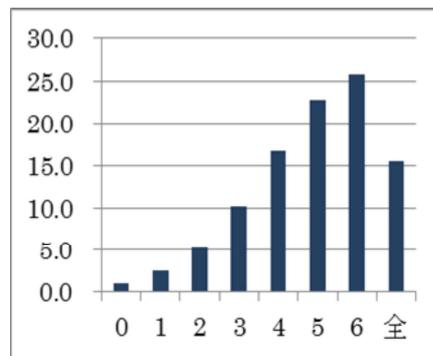
(単位%)

正解数		0 問	1 問	2 問	3 問	4 問	5 問	6 問	全問
小学校 4 年	算数	1.2	4.0	8.2	14.0	21.0	24.5	20.0	7.3
小学校 5 年	国語	1.0	2.6	5.3	10.3	16.8	22.8	25.7	15.5
	算数	4.1	8.5	12.5	16.6	18.4	17.7	15.2	7.0
中学校 1 年	数学	1.3	3.7	7.5	13.7	19.5	23.2	20.4	10.7
中学校 2 年	国語	1.4	4.0	8.6	12.9	18.2	22.6	21.3	11.0
	数学	2.8	6.0	11.3	18.3	21.3	20.4	14.3	5.7
	英語	7.7	11.6	13.5	14.6	14.5	13.5	13.3	11.2

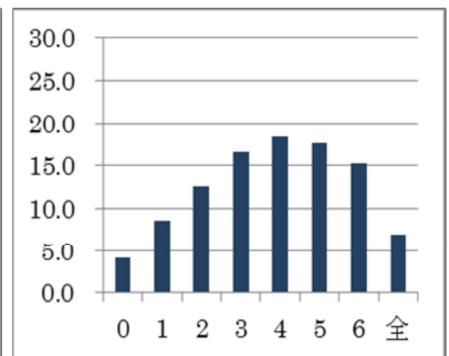
小学校 4 年算数



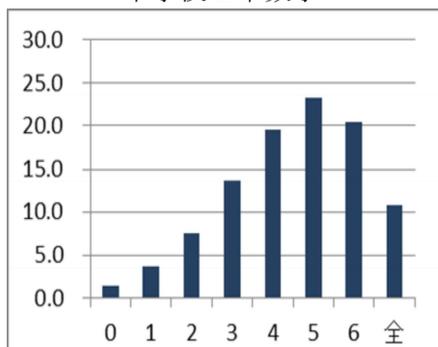
小学校 5 年国語



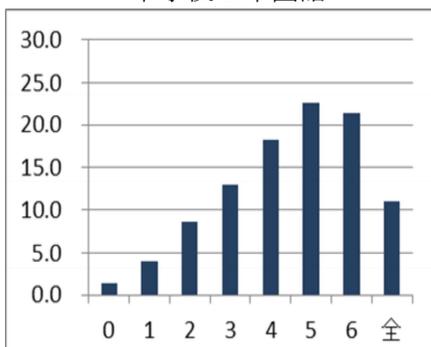
小学校 5 年算数



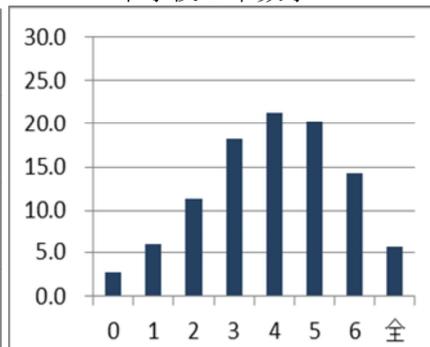
中学校 1 年 数学



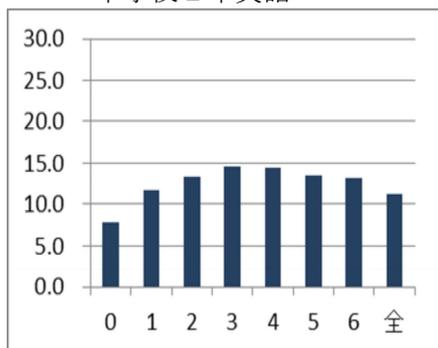
中学校 2 年 国語



中学校 2 年 数学



中学校 2 年 英語



小学校の 4 年算数、5 年国語、中学校の 1 年数学、2 年国語は右よりの分布となった。小学校の 5 年算数、中学校の 2 年数学、英語では左右対称に近い分布となった。各校では、自校の分布と比較することにより、課題を見出して授業改善を進めたい。

また、中学校の 2 年数学、英語において、正答数が 0 または 1 問の割合が P 調査より低くなっており、個に応じた指導の成果がみられる。全ての生徒に基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けるとともに、伸びる力を一層伸ばすことを視点とした授業改善を進めていきたい。

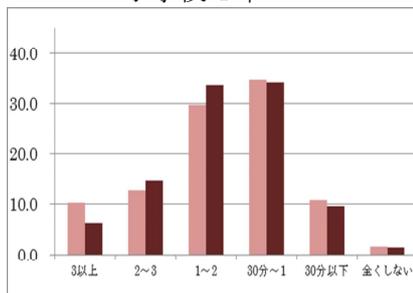
4 家庭学習の時間

◇学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1 日あたりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）

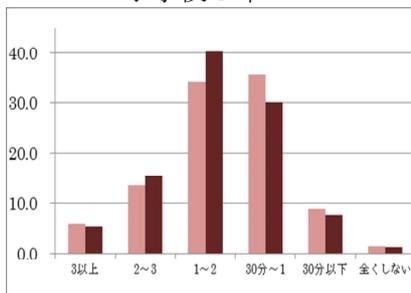
(単位%)

選択肢	3 時間以上	2 ～ 3 時間	1 ～ 2 時間	30 分～1 時間	30 分より少ない	まったくしない
小学校 4 年	6.2	14.7	33.9	34.3	9.6	1.4
小学校 5 年	5.2	15.4	40.3	30.1	7.7	1.3
中学校 1 年	6.9	25.6	43.7	17.7	4.3	1.8
中学校 2 年	4.8	19.9	40.3	23.3	8.1	3.6

小学校 4 年



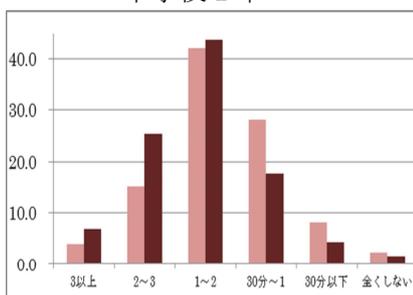
小学校 5 年



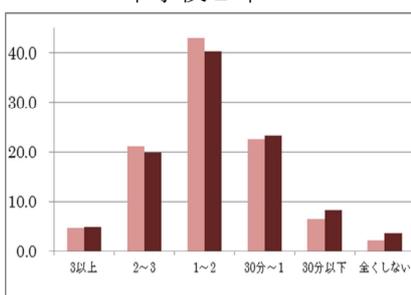
■ P 調査 ■ C 調査

小学校 5 年生、中学校 1・2 年生は、「1 時間以上 2 時間より少ない」が一番多い。小学校 4 年生は、「30 分以上、1 時間より少ない」が一番多い。また、分布については、P 調査とほぼ同様の分布となっている。

中学校 1 年



中学校 2 年



学力の向上に向けて、家庭と連携しながら、学年に応じた家庭学習の時間を確保したい。また、授業との関連付けた内容にするなどして、家庭学習への意欲を一層高める工夫を行っていきたい。

C調査 解答類型の集計(解答類型を提出した学校の集計)

【小学校4年】算数

参加280校中、81校提出

参加児童13745人に対する割合

28.6%

解答類型	[1]	人	%	[2]	人	%	[3]	人	%	[4]	人	%	[5]	人	%	[6]	人	%	[7]	人	%
	1◎	2516	65.1	1◎	2965	75.4	1◎	2938	74.6	1	131	3.3	1◎	3151	80.1	1◎	3044	77.4	1◎	1229	31.5
2	357	9.2	2	338	8.6	2◎	1	0.0	2◎	1081	27.5	2	593	15.1	2	495	12.6	2◎	423	10.8	
3	47	1.2	3	385	9.8	3◎	24	0.6	3	1833	46.6	3	129	3.3	3	13	0.3	3	80	2.1	
9	870	22.5	0	244	6.2	4	108	2.7	4	807	20.5	0	60	1.5	4	16	0.4	4	116	3.0	
0	72	1.9				5	43	1.1	9	42	1.1				5	309	7.9	5	33	0.8	
						6	4	0.1	0	38	1.0				6	12	0.3	6	70	1.8	
						7	17	0.4							9	32	0.8	7	264	6.8	
						9	755	19.2							0	14	0.356	9	1095	28.1	
						0	46	1.2										0	590	15.13	
計(人)	3862			3932			3936			3932			3933			3935			3900		

【小学校5年】国語

参加307校中、96校提出

参加児童15811人に対する割合

31.5%

解答類型	[一]	人	%	[二]	人	%	[三]	人	%	[四]	人	%	[五]	人	%	[六]	人	%	[七]	人	%
	1◎	4488	91.2	1◎	3486	70.7	1◎	2980	60.5	1◎	3001	60.2	1◎	4057	82.5	1◎	4117	83.4	1◎	1552	31.5
9	365	7.4	2	1313	26.6	9	1795	36.5	2	510	10.2	2	779	15.8	9	775	15.7	2	313	6.4	
0	67	1.4	9	123	2.5	0	148	3.0	3	758	15.2	9	38	0.8	0	47	1.0	3	509	10.3	
			0	11	0.2				4	240	4.8	0	41	0.8				4	767	15.6	
									9	370	7.4							9	1321	26.8	
									0	108	2.2							0	465	9.4	
計(人)	4920			4933			4923			4987			4915			4939			4927		

【小学校5年】算数

参加307校中、96校提出

参加児童15818人に対する割合

31.2%

解答類型	[1]	人	%	[2]	人	%	[3]	人	%	[4]	人	%	[5]	人	%	[6]	人	%	[7]	人	%
	1◎	3402	69.0	1◎	2686	54.4	1◎	3591	72.8	1◎	2939	59.6	1	259	5.2	1◎	2219	45.0	1◎	1707	34.6
2	332	6.7	2	1270	25.7	2	725	14.7	2	136	2.8	2	381	7.7	2	1312	26.6	2◎	402	8.2	
3	192	3.9	3	59	1.2	3	82	1.7	3	1352	27.4	3	2650	53.6	3	281	5.7	3◎	434	8.8	
9	947	19.2	4	326	6.6	9	355	7.2	9	427	8.7	4◎	1527	30.9	9	991	20.1	4◎	89	1.8	
0	61	1.2	9	551	11.2	0	177	3.6	0	74	1.5	9	51	1.0	0	125	2.5	5◎	324	6.6	
			0	48	1.0							0	75	1.5				6◎	132	2.7	
																		7	91	1.8	
																		8	663	13.5	
																		9	735	14.9	
																		0	352	7.1	
計(人)	4934			4940			4930			4928			4943			4928			4929		

【中学校1年】数学

参加144校中、50校提出

参加生徒13501人に対する割合

34.2%

解答類型	[1]	人	%	[2]	人	%	[3]	人	%	[4]	人	%	[5]	人	%	[6]	人	%	[7]	人	%
	1◎	3997	86.6	1◎	3115	69.3	1◎	1304	28.4	1	500	10.8	1◎	1383	30.2	1◎	4008	87.2	1◎	2722	59.0
2	67	1.5	2	1037	23.1	2	46	1.0	2◎	2844	61.6	2◎	1347	29.4	2	114	2.5	2	354	7.7	
3	205	4.4	9	307	6.8	3	38	0.8	3	826	17.9	3◎	71	1.5	9	433	9.4	3	463	10.0	
9	228	4.9	0	35	0.8	4	278	6.1	4	319	6.9	4◎	10	0.2	0	42	0.9	9	610	13.2	
0	119	2.6				5	365	7.9	9	15	0.3	5	218	4.8				0	464	10.1	
						9	2430	52.9	0	113	2.4	6	84	1.8							
						0	133	2.9				7	285	6.2							
												9	692	15.1							
												0	496	10.8							
計(人)	4616			4494			4594			4617			4586			4597			4613		

【中学校2年】国語

参加151校中、54校提出

参加生徒14292人に対する割合

35.2%

解答類型	[一]	人	%	[二]	人	%	[三]	人	%	[四]	人	%	[五]	人	%	[六]	人	%	[七]	人	%
	1◎	3070	61.2	1◎	3082	61.8	1◎	3270	65.6	1◎	3134	62.7	1◎	4320	86.2	1◎	2544	50.6	1◎	2761	54.8
2	1825	36.4	9	1734	34.8	2	461	9.2	9	1722	34.4	2	430	8.6	2	185	3.7	2	88	1.7	
9	104	2.1	0	168	3.4	3	411	8.2	0	143	2.9	9	169	3.4	3	1388	27.6	3	615	12.2	
0	18	0.4				9	452	9.1				0	95	1.9	4	833	16.57	4	614	12.2	
						0	390	7.8							9	25	0.497	9	328	6.5	
															0	51	1.015	0	630	12.5	
計(人)	5017			4984			4984			4999			5014			5026			5036		

【中学校2年】数学

参加152校中、54校提出

参加生徒14390人に対する割合

35.2%

解答類型	[1]	人	%	[2]	人	%	[3]	人	%	[4]	人	%	[5]	人	%	[6]	人	%	[7]	人	%
	1◎	4015	79.6	1◎	3323	65.8	1◎	3926	77.5	1◎	2341	46.3	1	204	4.1	1◎	1056	20.9	1◎	914	18.2
2	88	1.7	2	24	0.5	2	406	8.0	2	841	16.6	2◎	2251	45.4	2	57	1.1	2◎	709	14.1	
3	96	1.9	3	140	2.8	3	71	1.4	3	593	11.7	3	1612	32.5	3	1409	27.9	3	363	7.2	
4	328	6.5	9	1263	25.0	4	62	1.2	4	1145	22.6	4	627	12.6	4	181	3.6	4	175	3.5	
9	468	9.3	0	299	5.9	9	347	6.8	9	53	1.0	5	189	3.8	9	1465	29.1	5◎	850	16.9	
0	50	1.0				0	256	5.1	0	85	1.7	9	17	0.3	0	875	17.4	6◎	829	16.5	
												0	60	1.2				7	324	6.5	
																		8	163	3.2	
																		9	96	1.9	
																		0	599	11.9	
計(人)	5045			5049			5068			5058			4960			5043			5022		

【中学校2年】英語

参加152校中、47校提出

参加生徒14375人に対する割合

31.9%

解答類型	[1]	人	%	[2]	人	%	[3]	人	%	[4]	人	%	[5]	人	%	[6]	人	%	[7]	人	%
	1◎	2000	43.8	1◎	2434	53.3	1	836	18.3	1◎	2978	65.3	1◎	2649	58.1	1◎	2156	46.5	1◎	1440	31.5
2	54	1.2	2◎	34	0.7	2	871	19.0	2	230	5.0	2	425	9.3	2	492	10.6	2◎	345	7.5	
3	23	0.5	3	126	2.8	3◎	2362	51.6	3	19	0.4	3	84	1.8	3	35	0.8	3	1542	33.7	
4	96	2.1	4	13	0.3	4	414	9.0	4	87	1.9	4	402	8.8	9	1271	27.4	4	119	2.6	
5	566	12.4	9	1792	39.3	9	31	0.7	9	614	13.5	9	500	11.0	0	685	14.8	5	29	0.6	
6	120	2.6	0	166	3.6	0	66	1.4	0	634	13.9	0	503	11.0				6	164	3.6	
9	1226	26.8																9	364	8.0	
0	482	10.6																0	575	12.6	
計(人)	4567			4565			4580			4562			4563			4639			4578		

◆各教科の正答率及び提出された解答類型からみえる課題と授業改善の方向◆

【国語】＜小学校5年＞

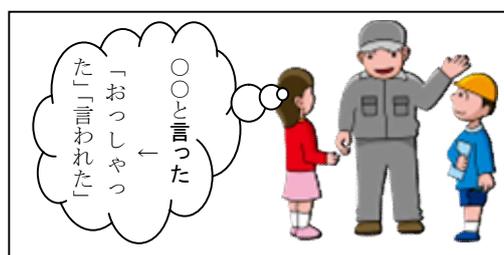
- ・【一】は、短歌と意味を比較しながら、叙述を関連付けて読み取れるかどうかをみる問題である。正答率は90.8%で、類題（P調査【一】）より約12ポイント高い。

短歌	秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる
意味	秋が来たと 目にははっきりと みえないけれど 「 」に、秋を感じてはとした。

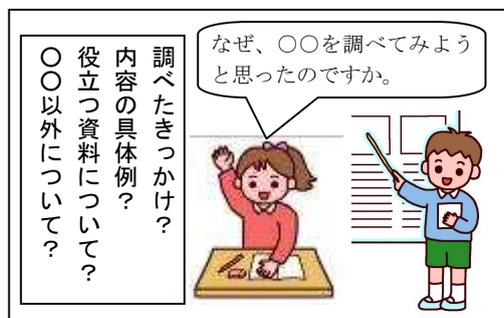
文学的文章について、叙述を基にしながら観点を絞って読む学習の成果といえる。今後も、文学的文章について表現の特徴に着目した指導を大切にしたい。

- ・【二】は、手紙のはじめのあいさつに書く内容を理解することができるかどうかをみる問題である。正答率は70.9%で、類題（P調査【二】）より約28ポイント高い。形式が決まった文章を書く学習の成果といえる。今後も、手紙など形式の決まった文章を実際に書く言語活動を大切にしたい。

- ・【三】は、相手にふさわしい言葉が使えるかどうかをみる問題である。正答率は61.8%であり、具体的な相手を決めて文章を書く学習の成果といえる。しかし、6割の正答率を考えると、さらに相手意識や目的意識を明確にして、考えや気持ちを伝える文章を書く学習を工夫したい。

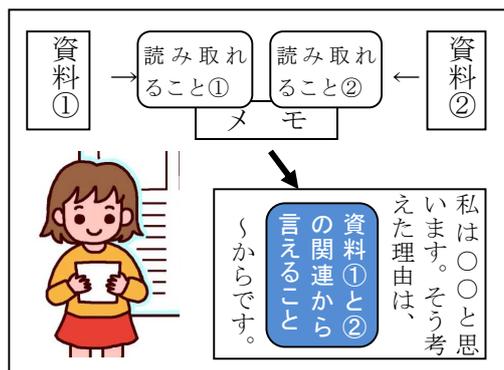


- ・【四】は、メモを記事にするために、必要な事柄を整理して簡潔に書くことができるかどうかをみる問題である。正答率は62.1%で、類題（P調査【三】）より約20ポイント高い。目的や必要に応じて、理由や事例を挙げて書く学習の成果といえる。しかし、誤答では解答類型3「文末が『です。』になっていない」が約15%いることから、互いの文章を読み合って文末表現を整えるなど、観点を明確にして推敲を行う学習を工夫したい。



- ・【五】は、ねらいを明確にして質問することができるかどうかをみる問題である。正答率は82.6%で、類題（P調査【四】）より約10ポイント高い。聞き取ったことをもとに、質問したり感想を述べたりする学習の成果といえる。今後も、互いのスピーチに質問したり感想を述べ合ったりする言語活動を行い、具体的に質問や感想の言い方を考え合う学習を工夫したい。

- ・【六】【七】は、複数の資料の内容をメモにまとめ、事実を基にして自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題である。正答率は【六】が85.8%で、【七】が類題（P調査【五】）より21ポイント高い34.0%で、目的に応じて複数の資料を関連付ける学習の成果が表れつつある。しかし【七】の正答率は3割と低く、解答類型4が約15%であることから、自分の意見を相手に分かりやすく伝えることに課題がある。今後は、相手に分かりやすく伝えるために理由や事例を挙げたり、文章の構成を考えたりする学習を工夫したい。



【国語】＜中学校2年＞

・【一】は、言語文化に関して四字熟語についての知識を問う問題である。正答率は 61.3% で、類題（P 調査【一】）とほぼ同等であった。選択肢問題でも 4 割が間違えるという実態から、今後も、**慣用句や故事成語等の知識を活用した学習を工夫したい。**

大器 大気 たいき
大旗 待機 晩成

・【二】は、比喩表現を見つけることができるかどうかをみる問題である。正答率は 63.4% で、類題（P 調査【二】）より約 40 ポイント高い。文章中における言葉の意味を具体的にイメージする学習の成果といえる。しかし、まだ十分に理解できていないことから、今後も、**表現の仕方について自分の考えをもったり評価したりする授業を工夫したい。**

・【三】は、話し言葉と書き言葉との違いを理解して適切に使うことができるかどうかをみる問題である。正答率は 68.9% で、類題（P 調査【三】）より

メモ	・練習の工夫 (例 ペアを組み、互いの音色を聴き合う)
原稿	練習の工夫 では 、ペアを組み、互いの音色を聴き合う ように しています。

約 28 ポイント高い。実際のスピーチ場面を通じた学習の成果といえる。今後も、**実際にスピーチを行う場面を設定し、言葉遣いについて考え合う授業を心がけたい。**

・【四】は、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題である。正答率は 61.5% で、類題（P 調査【四】）とほぼ同等である。約 3 割が間違っていることから、今後も、目的に応じて、**文章の中心的部分と付加的部分を読み分けたり、構成や細部の表現に着目したりする学習を工夫したい。**

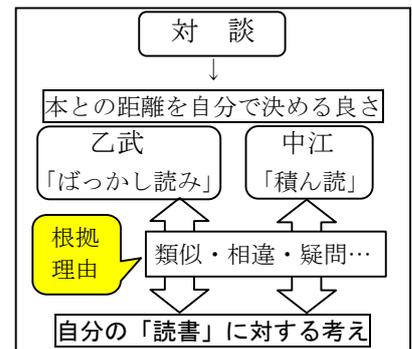
② 「くをしなない」	① 「くしたり、くさせたりしない」	「条件に合わせて答える」	「また、△△なので、くをしないようにしましょう。」	「中心的部分を探す」	「〇〇です。そのためくしたり、くさせたりすると、健康を害してしまうかもしれせん。」	また、△△なので、くをしないようにしましょう。	【目的】 飼育の時に気を付けることを抜き出す
------------	-------------------	--------------	---------------------------	------------	---	-------------------------	---------------------------

・【五】は、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題である。正答率は 85.1% で、類題（平成 24 年度 C 調査【四】）と同等である。古文の音読や朗読に取り組んだ成果といえる。今後も、**音読等を通して古文に対する関心を喚起する学習に取り組むようにしたい。**

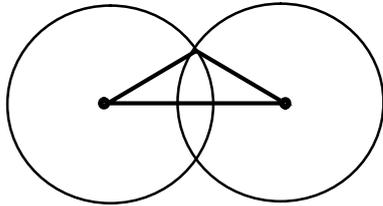
やうやう
← やう
ようよう

・【六】は、対談の発言の役割を考え、相手の話を踏まえて話すことができるかどうかをみる問題である。正答率は 51.3% で、約 3 割が解答類型 3 の誤答（他者の言葉の引用）であったことから、前後の相手の発言を的確に聞き取ることに課題がある。今後は、**実際の討論等の場面で、前の発言を受けている発言に着目して、具体的な言葉遣いや内容のよさを話し合う学習を工夫したい。**

・【七】は、相手の発言を注意して聞き、根拠を明らかにして考えを書く問題である。正答率は 59.2% で、類題（P 調査【五】）と同等である。解答類型 2 と 3 の誤答が共に約 12% であることから、根拠を明らかにして意見を書くことに課題がある。今後は、**目的に沿って、根拠を明確にして理由を付け、さらに具体例を入れるなどして話したり書いたりする学習を工夫したい。**

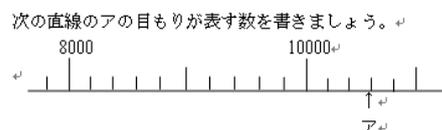


【算数】 <小学校4年>

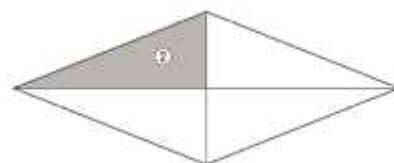
- ・【1】は「小数－小数」の計算で、正答率は 65.5%であった。P調査の問題よりも小数点以下の桁が増えているため、正答率が約8ポイント低かった。小数の意味や数の構成を根拠に、理由を説明する活動を位置付けるなどして、理解を深める指導の充実が求められる。
 - ・【2】は「示され三角形が二等辺三角形だと答えられるかをみる」問題で、正答率は 72.2%であった。図形を弁別する根拠となる辺の長さや角の大きさにかかわる定義や性質を明確にして、説明する活動等を一層充実させ、理解を確かにした。
- 
- ・【3】は、「数量の関係をとらえているか、除法の意味について理解しているかをみる」問題で、P調査の類題である。正答率は 73.8%で、P調査よりも約9ポイント高い結果となった。引き続き、数直線や線分図などに数量を表して、それらの関係を調べる算数的活動を取り入れた指導を充実させたい。
 - ・【4】は、「面積についての感覚が身に付いているかをみる」問題で、正答率が 28.3%であった。誤答では、「算数の教科書1冊の表紙の面積」の反応率が約50%である。「 cm^2 」という単位を基に、切手、はがき、教科書のどれかだと考え、「150」という数値から最も大きな算数の教科書を選択したり、150を「 15×10 」と考え、縦が 15 cm、横が 10 cm の長方形の算数の教科書の大きさと捉えたりしていることが考えられる。指導にあたっては、面積についての基本的な単位である 1 cm^2 以外にも、 100 cm^2 や 100 m^2 の大きさを実感できるようにすることが大切である。例えば、1辺が 10 cm の正方形を紙に書いたり、1辺が 10 m の正方形を校庭にかいたりする活動を取り入れることが考えられる。
 - ・【5】は、「直角三角形を見だし、三辺の長さの関係を基に、道のりの長短を判断する」問題で、正答率は 80.6%であった。「土曜日」の誤答が 15%程度見られる。地図上に直角三角形を見いだせずに見た目で判断したり、直角三角形を見いだせたが、三辺の長さを基に考えることができなかつたりしていると考えられる。辺の長さなど図形の構成要素に着目して、図形を構成したり観察したりすることが大切である。例えば、色々な長さの棒を用いて三角形を構成するなど、具体物を用いた算数的活動を取り入れることが考えられる。
 - ・【6】は、「棒グラフの目盛りの数値に着目して、最大値を読み取ることができるかどうかをみる」問題で、正答率は 78.0%であった。グラフの数値を読み取るだけでなく、目的に応じて目盛りの数値に着目して、最大値や最小値を読み取ったり、集団の持つ全体的な特徴を読み取ったりする活動を取り入れることが考えられる。
 - ・【7】は、「硬貨の種類と枚数を比較し、一方の支払いの方が、おつりの枚数が少なくなる理由をことばと数を用いて記述できるかどうかをみる」問題であり、正答率は 40.4%であった。おつりの硬貨の種類と枚数を比較し、考えの合理性を数学的に表現することが求められるが、それぞれの硬貨の枚数やおつりの金額のみを書いている誤答が 10%程度見られる。不十分な記述を示し、よりよい記述へと書き加える活動を取り入れ、記述に必要な条件を明確にする活動を取り入れることが考えられる。

【算数】 <小学校 5年>

- ・【1】「5.6-2.13」の正答率は、P調査より12ポイント低く68.0%であった。P調査「4.83+2.2」を減法に変えたために正答率が下がったことも考えられるが、第4学年のP調査「6-1.2」の正答率73.0%よりも低い。誤答のうち「3.53, 2.43」としている児童が10%程度いることから、**小数の仕組みや計算の味を確かめる指導を大切に、形式的に計算の仕方を教えて反復練習する指導に陥ることのないようにしたい。**
- ・【2】の正答率はP調査より3.7ポイント低く、54.0%であった。誤答のうち「16000、10060、13000、10030」と解答している児童が30%程度おり、数直線の一目盛りの大きさが意識されていないと考えられる。**数の並び方を、前後の数を見てとらえているか振り返る場を位置付け、一目盛りの大きさを根拠に、なぜその数になるのかを説明できているか見とどけたい。**



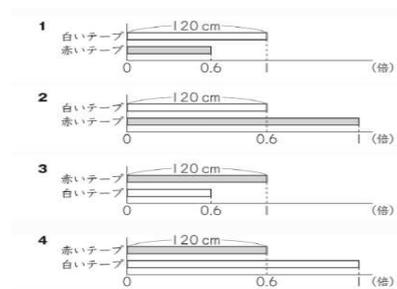
- ・【3】の正答率はP調査より14.1ポイント低く、57.9%となった。誤答のうち「二等辺三角形、正三角形」と解答している児童が15%程度おり、図形を弁別するための根拠となる定義や性質を明確にして用語を理解していないことがうかがえる。**図形の構成要素に着目して図形を調べたり、図形の構成の仕方や作図の仕方について、図形の特徴を根拠にしながらか説明したりする活動を充実させたい。**



- ・【4】の正答率は58.2%であった。C調査で新たに加えた問題で、H21・22年度C調査の同問題の正答率よりも高いが、伴って変わる二つの数量関係を調べる際、事象を踏まえずに「たてが2倍3倍なら横も2倍3倍」と思っている児童が30%程度いる。**判断が適切か振り返ったり、表に表された数値等が事象を適切に表しているか検討したりすることの大切さが自覚できるようにしたい。**

たて (cm)	1	2	3	4	5	6
横 (cm)	7					

- ・【5】はP調査よりも大幅に低く29.5%であった。「比べる量」が「もとにする量」より大きくなるととらえる誤答が50%を越えている。**数直線や線分図等に数量を表すなどして、「もとにする量」や「比べる量」を明確にしたい。また、比や割合、単位あたり量などを理解する背景には、倍概念や比例の考え方があることを意識して指導し、乗法や除法を広い場面や意味に用いることができるように工夫して指導したい。**



- ・【6】はC調査で新たに加えた問題で、44.2%となった。全国学力学習状況調査(H21)の同問題の正答率と比べると10ポイント程度高いが、正答の条件の一部しか答えられずに誤答となっている児童が25%程度いる。**問題の解決に必要な条件をすべて考慮しているかを再検討したり、条件と照らし合わせて答えを見直したりする場を設定し、条件に合う答えを選べているか確かめる活動を位置付けたい。**

時	港博物館行き 時刻表		
6	10	40	
7	10	40	
8	10	30	50
9	10	25	45 55
10	10	25	45 55
11	10	30	50



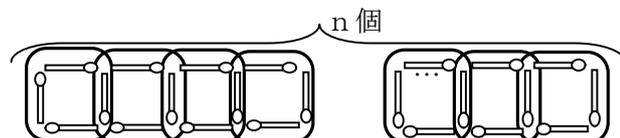
- ・【7】は面積が等しいことの理由を言葉や式や図を用いて説明することができるかどうかをみる問題で、P調査より8ポイント程度高く、正答率は60.1%となったが、「条件が不十分な解答」の児童は15%程度いた。**判断の正しさを振り返って確かめたり説明したりする場面を設定する指導の効果が表れているが、説明の根拠が適切かを検討しながら、説明内容を評価改善したりする学習をさらに充実させたい。**

【数学】 <中学校 1 年>

- ・【1】は「十進位取り記数法の仕組みについて理解しているかどうかをみる」問題で、正答率は 86.7%であった。誤答としては、「6.7」や「0.067」と答えている生徒が約5%見られた。数の大きさの関係を調べる際に、10倍、100倍、 $1/10$ 、 $1/100$ などの大きさの数は、小数点の移動によってつくれることに着目できるように、位取りなどの仕組みについて数直線を使ったり、単位を付けて日常生活に結び付けたりして、実感できる活動を位置付け、数の大きさや数の構成についての感覚を豊かにするようにしたい。
- ・【2】は「点対称な図形の一部と対称の中心が与えられたときに、点対称な図形を完成することができるかどうかをみる」問題で、正答率は 68.7%であった。線対称な図形をかいている生徒は約20%見られた。線対称な図形と点対称な図形を対比して性質を確認する学習を位置付けたい。また、基本の作図においては、作図の手順を順序よく説明したり、図形をとらえ直したりする活動を位置付けるようにしたい。
- ・【3】は「負の小数の計算における乗数と積の大きさ、除数と商の大きさの関係について、理解しているかどうかをみる」問題で、正答率は 28.4%であった。解答類型で上記以外の解答が約50%あり、乗数や除数が1より小さくなるときに、乗数と積の大きさや、除数と商の大きさの関係を正しく理解できていないことや、負の数の計算の意味を正しく理解できていないことが考えられる。数直線や図などを用いたり、具体的な場面に当てはめたりして数量の関係を捉えられるようにして、乗数と積の大きさ、除数と商の大きさを調べる活動を位置付けるようにしたい。
- ・【4】は「方程式を解く際に、等式の性質の使い方について理解しているかどうかをみる」問題で、正答率は 62.0%であった。「両辺から $5x$ を引いても等式が成り立つ」というところを、「両辺に5をかけても等式が成り立つ」とした誤答が約20%で、移項が等式の性質に基づいていることが理解できていないと考えられる。方程式を解く際に、移項を形式的に行うだけでなく、移項してよい理由について、等式の性質を根拠に説明し合う活動を位置付けたい。



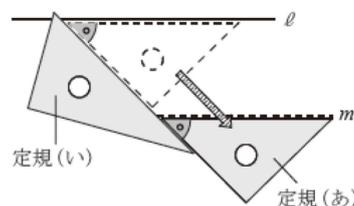
- ・【5】は「百分率の意味について理解しているかをみる」問題で、正答率は 59.5%であり、無解答が約10%であった。何が「基にする量」で、何が「比べる量」かを明確にしたり、割合を図などに表し、具体的にイメージしたりして、数量の関係をとらえたりする活動を大切にしたい。
- ・【6】【7】は「事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりして、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明することができるかをみる」という趣旨で、マッチ棒で正方形を n 個作るときの全部の本数を求める問題。正方形が5個のときのマッチ棒全部の本数を求める問題の正答率は、85.2%であった。また、求める式 $4n - (n - 1)$ になる理由を説明する問題の正答率は、60.5%であった。数量の関係を式に表したり、式を読み取ったりする学習を位置付け、図と式を関連付けて説明し伝え合う数学的活動の充実を図りたい。例えば、わけを説明しあう学習で、友の式を見て図と関連付けて考え、説明し合う活動などを取り入れたり、自分と違う友の考えのよさを話し合ったりするなどの学習を位置付けたい。



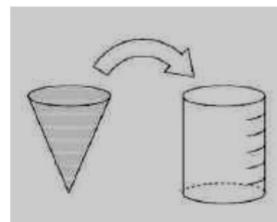
【数学】＜中学校2年＞

- ・【1】は、数直線上の値を求める問題であり、正答率は79.4%で、P調査類題よりも29ポイント高かった。一目盛の大きさや、負の数は右にあるほど絶対値が小さくなることなどを基にして、数直線上に示された数を読み取ることができている。**誤答を生かして理解を深めたり、なぜその値になるかを説明したりする活動を今後一層充実させたい。**
- ・【2】は、連立方程式を解く問題であり、正答率は64.4%で、同一問題で行った23年度の64.8%と同様の結果であった。解答類型9の反応率が約25%と高く、等式の性質の誤答（解答類型2, 3）以外の計算ミスが考えられる。**繰り返し練習等により計算技能の定着を図りたい。**
- ・【3】は、比例式を解く問題であり、正答率は78.6%で、P調査よりも約4ポイント高かった。しかし、 $x=4$ とする比例式の性質の理解が不十分な誤答（解答類型2）が約10%あった。比の値を用いて方程式を作り、**式変形する手順を説明させるなどの活動をさらに充実させたい。**

- ・【4】は、平行線の作図の根拠となる図形の性質を選ぶ問題であり、正答率は46.5%で、作図の根拠と図形の性質を関連付けて判断することに課題が見られる。「1つの直線に平行な直線は平行である」を選択した誤答（解答類型4）が約20%あり、作図された2直線の位置関係から判断していることが考えられる。三角定規の1つの角に着目し、動かす前と後の位置がそれぞれ2直線の同位角であることを見いだせるよう、**事象と図形をつないだ説明をする活動を充実させたい。**

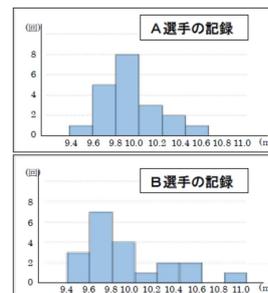


- ・【5】は、円錐と円柱の体積の関係を判断する問題であり、正答率は45.7%で課題が見られる。1/2になると判断した誤答（解答類型3）が約30%あった。円錐の容器に入った水を、円錐と底面が合同な円、高さが等しい円柱の容器に移すとき、**予想を立て実験を通して確かめる活動や、実験の結果から円錐の体積を求める式について考える活動を取り入れた指導を工夫したい。**



- ・【6】は、事象の中の関数関係を数学的に表現する問題であり、正答率は21.9%であり、P調査より約7ポイント高かったものの、課題が見られる。2つの数量関係を逆に捉えている誤答（解答類型3, 4）の反応率を合わせると約45%であり、**独立変数と従属変数を捉えることができている実態がうかがえる。指導に当たっては、数量の関係を的確に捉え、「○○は△△の関数である」という形で表現する場面を、どの学年の関数の授業においても取り入れることを考えたい。**

- ・【7】は、ヒストグラムの特徴をもとに自分の判断理由を数学的な表現を用いて説明する問題で、正答率は59.4%であり、P調査よりも約5ポイント高かったものの、資料を比較したり正しい根拠を挙げたりして説明する力に課題が見られる。誤答として、根拠が誤っていたり、ヒストグラムの読み取りに誤りがあったりするものが約15%見られる。また、説明が不十分な解答や無回答を合わせたものも約5%見られる。資料を基に判断をする学習においては、**自分なりの判断をすること、判断理由を資料の比較とそれぞれの特徴という観点から、数学で学習した用語を正しく使って説明することなどを意識した活動を一層充実させたい。**



【英語】 <中学校 2年>

【1】 [Q] She (want) to talk with her friends in Japanese a lot.
→ [A] She (wants) to talk with her friends in Japanese a lot.

- ・ P調査【1】の類題であり、正答率は44.9%である。P調査より約7ポイント低い。解答類型9が約3割いたことから、動詞 want そのものの意味が理解できなかつたり、like、playなどの動詞に比べて活用する機会が少なかつたりしたことが考えられる。いろいろな動詞について、語形変化を定着させるための口頭練習を繰り返すとともに、話したり書いたりする活動を行った後に、内容面はもちろん文法面での正しさについても生徒が着目できるような指導を行っていききたい。

【2】 [Q] Next Sunday (lunch / going / cook / is / to / she) for her family.
→ [A] Next Sunday (she is going to cook lunch) for her family.

- ・ P調査【2】の類題であり、正答率は55.7%である。P調査より約8ポイント低い。未来を表す文構造「主語+be going to 動詞の原形+目的語」の語順が十分に理解できていなかったと考えられる生徒が約4割いたことから、日本語の語順と英語の語順を比較させながら、語順整序の練習を行うような指導を丁寧に行っていききたい。(→解説指導シート【2】参照)

【3】 [Q] ア He goes to school. イ He teaches English. ウ He also studies Japanese.
エ He also studies English. → [A] ウ He also studies Japanese.

- ・ 昨年度C調査【3】の類題であり、正答率は53.8%である。昨年度より約7ポイント低い。英文の内容を正確に読み取る力を高めるために、接続詞などに着目しながら文と文のつながりを意識し、正しく読み進めていく指導を行っていききたい。

【4】 [Q] She plays it with her friends for about ④ () hours every Sunday. → [A] two

- ・ 昨年度C調査【4】の類題であり、正答率65.9%である。日常生活の中で頻繁に使われている語であるが、まだ3割程度の生徒が正しく書くことができていない。数字はもちろんのこと、日常生活でよく用いられる曜日、月等については、授業開始時のQA活動やノートに必ず書くことを習慣付けるようにするなどして、確実に定着できるような指導を行っていききたい。

【5】 [Q] Is Nancy a junior high school student? → [A] Yes, she is.

- ・ P調査【3】の類題であり、正答率60.6%である。P調査より約18ポイント高い。《Yes-No 疑問文》についての指導が丁寧に行われている成果であると考えられる。引き続き教科書本文の内容について《Yes-No 疑問文》の指導を行う中で、主語を正確に見付け正しい代名詞で答える指導と、疑問文の文頭にあるbe動詞や助動詞に応じて正しく答える指導を継続して行っていききたい。

【6】 [Q] What sport does Nancy's mother like to play? → [A] She likes to play tennis.

- ・ P調査【4】の類題であり、正答率47.3%である。P調査より約24ポイント高い。綴り間違いや文法ミスはあったが、約6割の生徒が英文の質問を理解し、答えの部分に着目できたと考えられる。しかし、英文そのものの理解が不十分だったと考えられる生徒が約4割いた。今後、まとまりのある英文を読む際には、内容についての3つの質問(→解説指導シート【3】参照)に答えるQA活動を行うなどして、書き手が伝えたいことを正確に読み取る指導を行っていききたい。

【7】 [Q] 次の条件に従って、英語2文でああなたの友だち一人についての紹介文を書きなさい。

【条件】①一文目は、友だちの名前を紹介する This で始まる英文を書く。

②二文目は、友だちが好きなこと、することなどについての英文を4語以上で書く。

→ [A] (例) This is Ken. He likes soccer very much.

- ・ P調査【5】の類題であり、正答率は40%である。P調査より約16ポイント低い。解答類型3が約3割いたことから、内容的には理解できる2文が書かれているものの、三人称単数現在のs等の文法的な間違いがあったことが考えられる。書く活動では、英文の完成後に、観点を明確にして生徒同士で読み合ったり、教師が添削をしたりして、英文の正しさに目を向けるような時間を位置付けたい。